

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	下水道計画課
課長名	友久

事業名	浸水対策事業				施策番号	
					II - 1 - (4) - ③	
事業概要	近年、集中的な豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加しています。 浸水被害を抑制するため、公共下水道の整備を進めると共に流域全体の浸水に対する安全度の向上を図ります。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額 (事業費備考)	人件費		目安の金額
	3,422,824 千円	1,900,000 千円		165,200 千円		

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	浸水被害を抑制するため、公共下水道の整備(雨水整備)を進めると共に流域全体の貯留・浸透・保水能力の向上など総合的な治水対策の検討を行います。		成果実績	当事業の成果の検証を数値化することは困難ですが、下水道整備を行うことで浸水被害の最小化を目指します。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	浸水被害の最小化		浸水被害の最小化	-	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	近年の局地的豪雨の発生傾向を踏まえ、過去に浸水した地区や未整備地区などの危険性の高い地区を整備し、浸水被害の最小化を目指します。 (最終目標と目標年度)	-		- %		
					やや遅れ 遅れ	順調
	(最終目標と目標年度)					

活動計画	過去に浸水した地区や未整備地区などの浸水の危険性の高い地区を優先的に整備するとともに、地形的に浸水を起こしやすいと想定される、山手の急勾配から平坦地への変移箇所や現況断面が10年確率の計画断面よりも不足している地区などの整備を計画的に進めます。	活動実績	活動実績は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	雨水整備率			70.3 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	雨水管布設工事等を行い、雨水整備率を上げることにより、治水対策を進めることができます。	70 %	70.3 %	100.0 %		
					やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動、成果の状況については、事業が予定どおり進んでいるため、順調としました。本事業は施策に対する有効性が高く、近年の集中豪雨を考えると、早急に行なうことが必要だと考えており、目標達成に向け、着実な取り組みを進めていくことが適当だと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	雨水整備は、浸水被害の根本的な解決策であり、効率的な方法だと考えます。また、整備箇所毎の現場の状況に応じた最も経済的な方法を検討し整備を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成24年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	浄水課
課長名	有田

事業名	地震対策推進事業(基幹浄水場)				施策番号	
					II - 1 - (4) - ④	
事業概要	大規模な地震が発生した場合においても、安全で安定的な給水を確保するため基幹水道施設の耐震化を実施するものです。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.00人
	1,276 千円	139,487 千円			1,225 千円	係長 0.01人 職員 0.15人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	浄水場は、市民の皆様へ安全で安定した給水をおこなうため24時間365日休むことなく運転しています。本市の北九州市水道事業中期(後期)経営計画(平成23年度～平成27年度)においても、「いつでも安定して供給できる水道」という施策目標のもと具体的取組として基幹浄水場(井手浦、穴生、本城)の耐震化を進めています。特に井手浦浄水場については、平成27年度の耐震化の完了を目指し、各種施設の耐震化を進めています。			成果実績	平成24年度は耐震診断方法の見直し等により2箇所の施設(洗浄水槽、ポンプ室)で耐震性が確認されました。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	安定して供給できる水道			-	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地震が起きても、安定して水道水を供給する状態を目指します。 (最終目標と目標年度)	-	安定供給の向上	- %		
	浄水場の耐震化			2 箇所	やや遅れ 遅れ	順調
井手浦浄水場の沈殿池、ろ過池、浄水池、洗浄水槽、ポンプ室の5施設について耐震性が確認された時点で目標達成となるため、その施設数を成果目標として設定しました。 (最終目標と目標年度) 井手浦浄水場の耐震化完了(平成27年度)	-	-	- %			

活動計画	平成24年度は井手浦浄水場及び本城浄水場の浄水池の一部の耐震化工事をおこないます。また井手浦浄水場浄水池の残りの部分と洗浄水槽についての耐震設計業務をおこないます。			活動実績	平成24年度は、診断手法や施工方法の見直しにより耐震設計の実績はありませんが、井手浦浄水場浄水池、本城浄水場浄水池の耐震化工事に着手しました。	
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	耐震設計の実施			0 箇所	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	耐震補強工事を行うための耐震設計を行います。 (井手浦浄水場浄水池、洗浄水槽)	2 箇所	2 箇所	0.0 %		
	耐震補強工事の実施			2 箇所	やや遅れ 遅れ	順調
耐震補強工事を行います。 (井手浦浄水場浄水池、本城浄水場浄水池)	-	2 箇所	100.0 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動としては、手法等を見直しで耐震設計を行わなくてよかったが、耐震工事を予定通り行ったので順調としました。成果については井手浦浄水場の5施設のうち2施設の耐震性が確認できたので順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	耐震診断結果等を踏まえて施工方法を見直すことでコスト削減を図っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	計画課
課長名	谷

事業名	地震対策推進事業(基幹配水池)				施策番号	
					Ⅱ - 1 - (4) - ④	
事業概要	応急給水拠点となる7つの基幹配水池の耐震化工事を行うものです。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	24年度執行額 159.301 千円	25年度当初予算額 496.000 千円	(事業費備考)		課長 0.03人 係長 0.09人 職員 0.27人
					目安の金額 3,270 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	大規模な地震が発生した場合においても安全で安定的な給水を確保するため、基幹配水池の耐震診断や耐震化工事を行います。			成果実績	成果実績は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	安定して供給できる水道			-	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	地震が起きても、安定して水道水を供給する状態を目指します。 (最終目標と目標年度)	-	安定給水の向上	- %			
	配水池耐震施設率	3.8 %	16.3 %	16.3 %	やや遅れ	順調	
配水池の総容量に対して耐震対策の施されている配水池容量の割合を表し、次の計算式で算出します。配水池耐震施設率=耐震対策の施されている配水池容量(浄水池含む)÷配水池総容量(浄水池含む)×100(単位:%) (最終目標と目標年度) 37.5%(平成27年度)			100.0 %	遅れ			

活動計画	平成24年度は、高見、日峰、藤ノ木配水池の耐震化工事を行います(工事完了は平成25年度)。また、昨年度より引き続き工事している山ノ神第一配水池の耐震化工事を完了します。			活動実績	平成24年度は、高見、日峰、藤ノ木配水池の耐震化工事に着手しました。		
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	配水池耐震化工事発注箇所			3 箇所	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	計画とおりに配水池耐震化工事が進められているか表すものです。	1 箇所	3 箇所	100.0 %			
					やや遅れ	順調	
				遅れ			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 平成24年度の目標である3配水池の耐震化工事を実施しているため、活動、成果とも順調であると考えます。
「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点 実施設計において、新工法を採用し、経費削減を図ることで経済性を向上させています。	

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	施設課
課長名	中村

事業名	地震対策推進事業(浄化センター)				施策番号	
					II - 1 - (4) - ④	
事業概要	浄化センターの施設のうち最重要施設である管理棟、汚泥処理棟及び自家発電棟の耐震化を図るものです。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	101,920 千円	560,000 千円			850 千円	0.01人 0.10人 (人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	浄化センターは、下水処理を行う終末処理場であり、24時間365日休むことなく運転しています。本市の下水道事業中期経営計画(北九州市下水道ビジョン)においても、「安全で安心なまちをつくる」基本方針の具体的取組として、浄化センターの重要施設の耐震化を行います。重要施設としては、有人施設(管理棟・汚泥処理棟)や緊急時の非常用発電設備のある自家発電棟の耐震補強工事を行っています。	成果実績	当事業の成果の検証を数値化することは困難ですが、地震時においても下水道が最低限有すべき機能を確保することを目指します。		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	地震に強い下水道をつくる					代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地震時においても、下水道が最低限有すべき機能を確保することを目指します。 (最終目標と目標年度)	-	重要施設の耐震化	-	大変順調	
					- %	順調
	(最終目標と目標年度)				やや遅れ	順調
					遅れ	

活動計画	平成24年度は、新町浄化センターの自家発電室、北湊浄化センターの汚泥処理棟の耐震補強工事、日明浄化センターの管理棟、汚泥処理棟、皇后崎浄化センターの管理棟・中央操作棟、汚泥処理室、自家発電室の耐震設計を実施します。	活動実績	平成24年度は、新町浄化センターの自家発電室、北湊浄化センターの汚泥処理棟の耐震補強工事、日明浄化センターの管理棟、汚泥処理棟、皇后崎浄化センターの管理棟・中央操作棟、汚泥処理室、自家発電室の耐震設計を実施しました。			
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	耐震補強工事の実施			2 箇所		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	耐震補強工事を行います。	2 箇所	2 箇所	100.0 %	大変順調	
	耐震設計の実施			6 箇所		順調
耐震補強工事を行うための耐震設計を行います。	3 箇所	6 箇所	100.0 %	やや遅れ		
					遅れ	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動・成果の状況については、計画通りに進めているため、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	工法検討に当たっては、既設の建物の耐震計算をクリアをすることが最優先であり、経済性・効率性に対する高い効果を得ることは困難ですが、今後も検討を続けてまいります。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	海外事業課
課長名	中嶋

事業名	水道技術の国際協力				施策番号	
					II - 3 - (4) - ②	
事業概要	本市の浄水技術や漏水削減などの技術を活かし、カンボジア王国プノンペン市や友好都市であるベトナム国ハイフォン市、中国大連市などへ職員を派遣し、水質の向上、漏水の削減などに取り組みます。加えて、各国の研修員の受け入れなど、国際協力・交流を図り、世界に貢献する水道を目指します。また、本市上下水道局職員の国際感覚の向上を図り、より幅広い水道技術の習得にも寄与します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費
	11,113 千円	13,545 千円			36,425 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	本市の浄水技術や漏水削減などの技術を活かし、カンボジア王国プノンペン市や友好都市であるベトナム国ハイフォン市、中国大連市などへ職員を派遣し、水質の向上、漏水の削減などに取り組みます。加えて、各国の研修員の受け入れなど、国際協力・交流を図り、世界に貢献する水道を目指します。また、本市上下水道局職員の国際感覚の向上を図り、より幅広い水道技術の習得にも寄与します。			成果実績	世界各国から研修生を継続的に受け入れ、水道技術の向上を図っています。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	国際技術協力度でアジアの発展に貢献	-	開発途上国の技術向上を目指します。	-	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	国際技術協力を通じ、本市が有する技術やノウハウを輸出することによって、海外技術者の育成を図ります。 (最終目標と目標年度)				- %	順調	
	(最終目標と目標年度)				やや遅れ		
					遅れ	大変順調	

活動計画	カンボジア王国地方都市における水道事業人材育成、ベトナム国ハイフォン市における浄水処理技術の移転、中国大連市周辺都市の漏水削減などのために職員の派遣や研修員の受け入れをはじめ、各国の研修員の受け入れを実施します。	活動実績	海外の水環境改善が進められるよう、積極的に人材育成に取り組みました。				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	海外からの研修員受入人数	45人	80人	86人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体国際化協会(CLAIR)事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構(JICA)や北九州国際技術協力協会(KITA)などの依頼により受け入れた研修員の人数です。				107.5 %	順調	
					やや遅れ		
					遅れ	大変順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業や自治体国際化協会(CLAIR)の受入研修に加え、JICAやKITAの依頼による受入研修などの国際協力を継続的に実施することにより、現地の技術力向上に寄与しています。活動については、予定どおり研修生を受け入れており、大変順調としました。成果については、研修生の受け入れを通じて開発途上国の技術力向上に繋がること、また本市のPR・イメージアップにも寄与することから、大変順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	国際協力機構(JICA)の制度を積極的に活用することにより、本市のコスト削減を図っています。民間活力の導入について、日本において水道事業は地方自治体によって運営されており、そのノウハウは自治体にあります。したがって、民間の協力も必要ですが、実施主体として市が関わっていく必要があります。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	海外事業課
課長名	中嶋

事業名	下水道技術の国際協力				施策番号			
					II - 3 - (4) - ②			
事業概要	アジアを中心とした国や地域(中国大連市、ベトナム国ハイフォン市、インドネシア、カンボジア、サウジアラビアなど)への職員派遣や海外からの研修員受入れにより、下水道の計画づくりや維持管理等に関する指導を行うことで、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献します。併せて、国際技術協力を通じ、国際感覚やプレゼンテーション能力の向上など、本市職員の育成にも寄与します。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	事業費	24年度執行額 12,858 千円	25年度当初予算額 12,739 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 29,035 千円	課長 0.89人 係長 0.89人 職員 1.32人	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	アジアを中心に水環境の改善が必要な国や地域に対し、本市が長年の事業運営の過程で培った技術やノウハウを活かした指導を行い、海外の技術者を育成します。			成果実績	世界各国から研修生を継続的に受入れ、下水道技術の向上を図っています。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	国際技術協力アジアの発展に貢献	-	開発途上国の技術力向上を目指します。	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	海外の技術者育成のため、本市職員の派遣や海外研修員の受入れを進めます。 (最終目標と目標年度) 研修員の受入:2,200人以上(平成32年度)			- %			
(最終目標と目標年度)						大変順調	

活動計画	下水道技術を海外の研修員に効率的・効果的に伝えるため、国際技術協力や下水道に精通した機関である(独)国際協力機構(JICA)、(財)北九州国際技術協力協会(KITA)や国の下水道グローバルセンター(GCUS)などと連携して取り組みます。	活動実績	海外の水環境改善、保安が進められるよう、積極的に人材育成に取り組みました。				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	海外からの研修員受入人数	270 人	200 人	407 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体国際化協会(CLAIR)事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構(JICA)や北九州国際技術協力協会(KITA)などの依頼により受け入れた研修員の人数です。			203.5 %			
						大変順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業や自治体国際化協会(CLAIR)の受入研修に加え、JICAやKITAの依頼による受入研修などの国際協力を継続的に実施することにより、現地の技術力向上に寄与しています。活動については、予定どおり研修生を受け入れており、大変順調としました。成果については、研修生の受け入れを通じて開発途上国の技術力向上に繋がること、また本市のPR・イメージアップにも寄与することから、大変順調としました。
	【経済性】 (同成果を低コストで) 【効率性】 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点 受入研修については、JICAや国土交通省の制度を活用することで、本市のコスト縮減を図っています。また、講師謝金を下水道会計の収入としています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	計画課
課長名	谷

事業名	水道トライアングル構想(基幹浄水場間の送水システムのループ化)				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (3) - ①	
事業概要	西部地区の穴生浄水場、本城浄水場、東部地区の井手浦浄水場の3つの基幹浄水場を送水管で連絡し、浄水場間のバックアップ機能を強化するものです。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		課長 0.10人
	400,188 千円	0 千円			係長 0.25人 職員 0.60人	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 漏水事故や自然災害時でも安定した給水を行うため、3つの基幹浄水場(穴生浄水場、本城浄水場、井手浦浄水場)を送水管で連絡し、浄水場間のバックアップ機能を強化を図ります。	成果実績	成果実績は下記のとおりです。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 事故・災害発生時に安定給水が可能な人口 浄水場等が事故・災害で供給出来なくなった場合に、他の浄水場からの応援給水により影響範囲を少なくすることで、安定的な給水を確保することが可能となる人口です。 (最終目標と目標年度) 79万人(平成24年度)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
		60 万人	79 万人	79 万人	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
				100.0 %	順調	
						やや遅れ
	(最終目標と目標年度)				遅れ	順調

活動計画	必要な工事の完了後、試験通水を行い、水道トライアングルの供用開始を図る。				活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 試験通水・供用開始	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	水道トライアングルの試験通水を行い、供用開始します。	-	100 %	100 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
				100.0 %	順調		
	穴生～本城連絡管整備	0.3 km	0.8 km	1.1 km	やや遅れ	大変順調	
水道トライアングル構想に係る工事(穴生～本城連絡管)が予定どおり行われているかを表すものです。			137.5 %	遅れ			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	3つの基幹浄水場を送水管で連絡し、浄水場間のバックアップを図る水道トライアングルは、平成24年度で完成しました。このため活動の状況は大変順調、成果の状況としても順調であると考えています。 実施設計において、経済性等も考慮した最適な工法を採用しているため、これ以上の高い効果は得られないと考えています。また、新若戸道路に合わせて送水管を整備しているため、送水管単独で整備するよりも経済的です。
-----------	---	--

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	配水管理課
課長名	津田

事業名	小規模貯水槽水道の適正管理に関する指導				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (3) - ①	
事業概要	小規模(10m以下)貯水槽水道は、水道法の改正により貯水槽の適正な管理について水道事業者の関与が義務付けられたため、貯水槽設置者に対する現地点検指導や文書による啓発などの管理指導を行っています。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	30,429 千円	26,000 千円			7,150 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	小規模貯水槽水道の管理水準を向上させ、利用者が安心しておいしく飲める水道を目指します。			成果実績	成果を数値で把握することは困難ですが、継続的に管理指導を行うことにより、管理水準の向上を目指します。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	管理水準の向上		管理水準の向上	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	小規模貯水槽水道の設置者に対して、継続的に管理指導を行うことにより、管理水準の向上を図ります。 (最終目標と目標年度)	-		- %			
(最終目標と目標年度)						順調	

活動計画	小規模貯水槽水道の設置者に対して現地点検指導、文書による啓発などの管理指導を行います。ただし、公共施設及び厚生労働省登録の検査機関によって問題なしと判定された箇所を除きます。				活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	年間管理指導件数		1,600 件	1,634 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	小規模貯水槽水道の設置者に対して管理指導を行った件数です。	1,626 件		102.1 %			
						順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	活動の状況については、今年度も目標1,600件を上回る1,634件に対して管理指導を実施できたので、順調としました。成果については、事業の実施前と比較して管理水準も向上傾向にあることから、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	これまで蓄積したデータを活用することで、管理水準の向上を目指し引き続き検討を進めていきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	配水管理課
課長名	津田

事業名	アクアフレッシュ事業(学校の直結式給水の推進)					施策番号	
						Ⅲ - 1 - (3) - ①	
事業概要	水槽式給水の小中学校等では、近年の児童、生徒数減による使用水量の減少や、休日に水を使用しないことなどにより、貯水槽内に水が滞留し、水のおいしさが軽減する状況にあります。そこで、上下水道局では市立小中学校等の直結式給水への切替えを推進するため、既存の給水管口径のまま直結式給水への切替えが可能な学校を対象に直結化の支援をしています。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (工事費助成)
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費	目安の金額	課長 0.05 人
	34,986 千円	35,000 千円				2,950 千円	係長 0.05 人 職員 0.25 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市立小中学校等の直結給水を推進し、子どもたちがよりおいしい水道水を飲めるようにすることが目標です。				成果実績	成果実績は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	学校直結率			61 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市立小中学校の内、直結式給水を採用している学校の割合です。 (直結式給水の学校数/全学校数) (最終目標と目標年度) 89%(平成27年度)	53 %	64 %	95.3 %		順調		
	(最終目標と目標年度)							

活動計画	学校の直結化に要する工事費の一部助成を行います。					活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	学校直結化数			12 校	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ			活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	学校の直結化に要する工事費を助成した件数です。	9 校	20 校	60.0 %		やや遅れ 遅れ	やや遅れ	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	成果の状況については、計画64%に対して、実績は61%のため「順調」としました。活動状況については、計画20校について12校でしたので「やや遅れ」としました。これは、近年、学校の耐震化に予算がシフトしていることや、直結化が行われていない学校には施工上困難な箇所が数多く残っており、年度内で施工可能な学校数が少ないためです。 これまで既存口径で直結化ができないとされていた学校について、既存管の実使用量の調査を行いました。このデータをもとに、本事業でより多くの学校が直結化できるように検討を行っていきます。
------------------	--	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	計画課
課長名	谷

事業名	配水管更新事業				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (3) - ①	
事業概要	老朽化した配水管を計画的に更新することにより、漏水、赤水、不出水の解消や管破損事故を防止し、安全で安定的な給水を確保します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	3,335,821 千円	3,800,000 千円			296,125 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	老朽化した配水管を計画的に更新することにより、漏水、赤水、不出水の解消や管破損事故を防止し、安全で安定的な給水を確保します。	成果実績	平成24年度は46.1kmの配水管更新を行い、安定給水の向上を図りました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	安定して供給できる水道			-	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	老朽化した配水管を更新することにより、水道水の安定供給を目指します。 (最終目標と目標年度)	-	安定給水の向上	- %		
					やや遅れ	順調
(最終目標と目標年度)				遅れ		

活動計画	第3期配水管更新計画は年間45kmの配水管更新を行うものですが、今年度は、年間50kmの配水管更新を行います。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	配水管更新延長 50km			46.1 km	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	計画どおりに配水管更新事業が進められているか表すものです。	57.5 km	50 km	92.2 %		
					やや遅れ	順調
				遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	平成24年度の目標である配水管更新50kmに対し、工事発注延長は50.5km、また、46.1kmの配水管更新を終えているため、活動、成果とも順調であると考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	実施設計において経済性等も考慮した最適な工法を採用しているため、これ以上の高い効果は得られないと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	下水道計画課
課長名	友久

事業名	合流式下水道改善事業				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (3) - ③	
事業概要	合流式下水道で整備された地区は、大雨時に雨水で希釈された未処理下水の一部が川や海に流れでることがあります。放流先の汚濁負荷を分流式下水道並みに軽減するため、合流式下水道の改善に努め、良好な水環境をつくります。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	2,256,804 千円	2,800,000 千円			121,150 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	放流先の汚濁負荷を分流式下水道並みに軽減するため、分流式下水道区域の拡大や雨水滞水池の設置などを進め、良好な水環境をつくります。			成果実績	当事業の成果の検証を数値化することは困難ですが、下水放流先の汚濁負荷を軽減するため、合流式下水道の改善を目指します。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	合流式下水道の改善推進						
	汚濁負荷量の分流化下水道並みの軽減、夾雑物の削減、放流回数半減による公衆衛生上の安全確保を行うため合流式下水道の改善を目指します。 (最終目標と目標年度)	-	合流式下水道の改善	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	(最終目標と目標年度)			- %		順調	

活動計画	浸水対策や改築更新に併せ一体的に取り組むことはもとより、河川整備等の他事業とも緊密な連携を図りながら、合流式下水道の改善を進めます。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	合流改善率			30.7 %		
	雨水整備による分流化及び雨水滞水池の設置を行っていくことで、合流式下水道の改善を進めることができます。	26.1 %	30.7 %	100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	活動、成果の状況については、事業が予定どおり進んでいるため、順調としました。本事業の整備を推進することにより、着実に合流式下水道の改善が進み、公共用水域の汚濁負荷削減が図られています。今後も計画的に実施することが適当だと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	浸水対策や改築更新と併せ、一体的に取り組むなど、効率性を高めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	施設課
課長名	中村
施策番号	
VI - 3 - (3) - ④	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他

事業名	下水道資源の有効利用			
事業概要	下水汚泥のバイオマスエネルギーとしての燃料化やさまざまな資源としての有効利用、また処理水の再利用による循環利用などを行います。			
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	
	1,498,770 千円	1,907,231 千円	人件費	目安の金額
				課長 1.00人 係長 2.33人 職員 12.33人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	下水汚泥のバイオマスエネルギーとしての燃料化やさまざまな資源としての有効利用、また処理水の再利用による循環利用などを一層進めます。			成果実績	成果実績は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	下水汚泥の再資源化率	92.4 %	95 %	92.5 %	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	浄化センターで発生する下水汚泥をセメント原料化や一般ごみとの混合焼却によるごみ発電の燃料として再利用することで再資源化を行った割合。 (最終目標と目標年度)平成25年度に95%			97.4 %			
	下水処理水有効利用率	7.4 %	7.1 %	7 %	やや遅れ	遅れ	順調
浄化センターで処理した水を場内の雑用水や修景用水、民間工場等の用水として再利用した割合。 (最終目標と目標年度)平成25年度に7.1%	98.6 %						

活動計画	現在の下水汚泥処理方法以外に、更なる再資源化に向け汚泥燃料化設備の導入を検討します。また下水処理水の有効利用は目標を達成していますが、更なる向上のため、現状以外の利用方法の検討を行います。	活動実績	下水汚泥については、燃料化事業の基本協定を締結しました。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	更なる再資源化へ向けての検討	燃料化事業の要求水準等の検討	燃料化事業の基本協定を締結する	基本協定を締結した	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	浄化センターで発生する下水汚泥の更なる再資源化として汚泥燃料化設備を平成27年度供用開始に向けて検討します。燃料化設備により、火力発電所などの石炭代替燃料となりCO2排出削減効果があります。			- %			
他の用途への有効利用についての検討	-	-	-	やや遅れ	遅れ	順調	
成果指標の目標値を達成していますが、現状の利用形態だけでは、頭打ちのためその他での利用用途を検討する必要があります。	-	-	- %				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果指標は目標を下回っていますが、目標値に近い数値を達成しており、活動についても汚泥燃料化設備導入の検討が計画どおり進んでいるため、順調としました。下水汚泥については、セメント原料化および一般ごみとの混合焼却という有効活用できる処理方法が確立されています。下水汚泥燃料化が実施されることで再資源化率の向上が期待されます。今後ともできる限り有効活用できるよう努めていきます。 下水処理水については、今後、より再利用率の増加ができるよう努めていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	下水汚泥の処理については、経済性や処理の安定性を考慮し、より温室効果ガス削減効果が高い燃料化などへ変更してまいります。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	海外事業課
課長名	中嶋

事業名	水道技術の国際協力				施策番号	
					VII - 1 - (3) - ②	
事業概要	本市の浄水技術や漏水削減などの技術を活かし、カンボジア王国プノンペン市や友好都市であるベトナム国ハイフォン市、中国大連市などへ職員を派遣し、水質の向上、漏水の削減などに取り組みます。加えて、各国の研修員の受け入れなど、国際協力・交流を図り、世界に貢献する水道を目指します。また、本市上下水道局職員の国際感覚の向上を図り、より幅広い水道技術の習得にも寄与します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	11,113 千円	13,545 千円			36,425 千円	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 本市の浄水技術や漏水削減などの技術を活かし、カンボジア王国プノンペン市や友好都市であるベトナム国ハイフォン市、中国大連市などへ職員を派遣し、水質の向上、漏水の削減などに取り組みます。加えて、各国の研修員の受け入れなど、国際協力・交流を図り、世界に貢献する水道を目指します。また、本市上下水道局職員の国際感覚の向上を図り、より幅広い水道技術の習得にも寄与します。			成果実績	世界各国から研修生を継続的に受け入れ、水道技術の向上を図っています。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	国際技術協力でアジアの発展に貢献	-	開発途上国の技術向上を目指します。	-	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	国際技術協力を通じ、本市が有する技術やノウハウを輸出することによって、海外技術者の育成を図ります。 (最終目標と目標年度)			- %	順調	
					やや遅れ	
					遅れ	大変順調
	(最終目標と目標年度)					

活動計画	カンボジア王国地方都市における水道事業人材育成、ベトナム国ハイフォン市における浄水処理技術の移転、中国大連市周辺都市の漏水削減などのために職員の派遣や研修員の受け入れをはじめ、各国の研修員の受け入れを実施します。			活動実績	海外の水環境改善が進められるよう、積極的に人材育成に取り組みました。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	海外からの研修員受入人数	45 人	80 人	86 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体国際化協会(CLAIR)事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構(JICA)や北九州国際技術協力協会(KITA)などの依頼により受け入れた研修員の人数です。			107.5 %	順調	
					やや遅れ	
					遅れ	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業や自治体国際化協会(CLAIR)の受入研修に加え、JICAやKITAの依頼による受入研修などの国際協力を継続的に実施することにより、現地の技術力向上に寄与しています。活動については、予定どおり研修生を受け入れており、大変順調としました。成果については、研修生の受け入れを通じて開発途上国の技術力向上に繋がること、また本市のPR・イメージアップにも寄与することから、大変順調としました。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点 国際協力機構(JICA)の制度を積極的に活用することにより、本市のコスト削減を図っています。民間活力の導入について、日本において水道事業は地方自治体によって運営されており、そのノウハウは自治体にあります。したがって、民間の協力も必要ですが、実施主体として市が関わっていく必要があります。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	海外事業課
課長名	中嶋

事業名	水道分野における海外水ビジネス				施策番号	
					VII - 1 - (3) - ②	
事業概要	海外水ビジネスは、2025年には、上下水道分野など合わせて約87兆円規模の市場に成長すると見込まれており、国の新成長戦略においても、アジアを中心とした水インフラ分野の海外展開が位置づけられています。このような中で、日本企業の優れた技術と、地方公共団体の運営・管理ノウハウを公民連携し、海外水ビジネスを推進することを目指します。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.30人
	42,251 千円	87,612 千円			49,075 千円	係長 1.95人 職員 1.95人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	日本企業の優れた技術と、地方公共団体の運営・管理ノウハウを公民連携し、海外水ビジネスを推進することを目指します。	成果実績	成果実績は下記のとおりです。 ・カンボジア・バタンバン/コンボンチャム両市の下水道拡張整備計画準備調査(H24年5月～H25年3月) ・センモノロム市水道整備基本計画・実施設計・施工管理業務受注(H24年1月～H27年3月)		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	海外水ビジネスの受注	9,095 千円	-	21,602 千円	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	アジアを中心とした国や地域を対象に、上水道に関するビジネス案件を受注します。 (最終目標と目標年度)			- %		
	(最終目標と目標年度)					大変順調

活動計画	「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を中心として、国際技術協力により強い人的ネットワークを築いているカンボジア、ベトナム、中国、インドネシアを当面の対象として、水ビジネスを展開します。	活動実績	活動実績は下記のとおりです。 ・IWA釜山 ジャパン・パビリオンに出展(H24年9月) ・ベトウォーターに出展(H24年11月) ・カンボジア水道セミナーに参加(H24年12月)			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	海外水ビジネスの推進	-	-	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸に、技術・製品の具体的な売り込みや各種展示会への出展、広報活動など、セールスプロモーション活動を進めます。			- %		
	(最終目標と目標年度)					大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	ビジネス対象国であるカンボジアやベトナム・ハイフォンで、案件形成活動を行い、着実に事業展開を進めています。その結果、2件のビジネス案件受注を受けるなど、成果が現れており、活動・成果とも大変順調と評価しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	北九州市海外水ビジネス推進協議会と連携し、事業に取り組むことで、情報交換・情報共有を図っており、効率的な運営を行っています。水道分野の管理運営ノウハウは、自治体が有していることから、今後も公民連携しながら事業に取り組んでいきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	海外事業課
課長名	中嶋

事業名	下水道技術の国際協力				施策番号		
					VII - 1 - (3) - ②		
事業概要	アジアを中心とした国や地域(中国大連市、ベトナム国ハイフォン市、インドネシア、カンボジア、サウジアラビアなど)への職員派遣や海外からの研修員受入れにより、下水道の計画づくりや維持管理等に関する指導を行うことで、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献します。併せて、国際技術協力を通じ、国際感覚やプレゼンテーション能力の向上など、本市職員の育成にも寄与します。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	24年度執行額 12,858 千円	25年度当初予算額 12,739 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 29,035 千円	課長 0.89人 係長 0.89人 職員 1.32人 (人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	アジアを中心に水環境の改善が必要な国や地域に対し、本市が長年の事業運営の過程で培った技術やノウハウを活かした指導を行い、海外の技術者を育成します。	成果実績	世界各国から研修生を継続的に受入れ、下水道技術の向上を図っています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	国際技術協力でアジアの発展に貢献	-	開発途上国の技術力向上を目指します。	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	海外の技術者育成のため、本市職員の派遣や海外研修員の受入れを進めます。 (最終目標と目標年度) 研修員の受入:2,200人以上(平成32年度)			- %		
	(最終目標と目標年度)					大変順調

活動計画	下水道技術を海外の研修員に効率的・効果的に伝えるため、国際技術協力や下水道に精通した機関である(独)国際協力機構(JICA)、(財)北九州国際技術協力協会(KITA)や国の下水道グローバルセンター(GCUS)などと連携して取り組みます。	活動実績	海外の水環境改善、保全が進められるよう、積極的に人材育成に取り組みました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	海外からの研修員受入人数	270 人	200 人	407 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業及び自治体国際化協会(CLAIR)事業を活用した受入研修に加え、国際協力機構(JICA)や北九州国際技術協力協会(KITA)などの依頼により受け入れた研修員の人数です。			203.5 %		
	(最終目標と目標年度)					大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	本市の提案により採択を受けたJICA草の根技術協力事業や自治体国際化協会(CLAIR)の受入研修に加え、JICAやKITAの依頼による受入研修などの国際協力を継続的に実施することにより、現地の技術力向上に寄与しています。活動については、予定どおり研修生を受け入れており、大変順調としました。成果については、研修生の受け入れを通じて開発途上国の技術力向上に繋がること、また本市のPR・イメージアップにも寄与することから、大変順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	受入研修については、JICAや国土交通省の制度を活用することで、本市のコスト縮減を図っています。また、講師謝金を下水道会計の収入としています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	上下水道局
担当課	海外事業課
課長名	中嶋

事業名	下水道分野における海外水ビジネス				施策番号	
					VII - 1 - (3) - ②	
事業概要	「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸に、官民がそれぞれ有する英知を結集し、2025年に約87兆円規模に成長すると見込まれる海外水ビジネスに参入し、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営までを含む海外の水ビジネス案件の受注を目指します。 併せて、「ウォータープラザ北九州」を中核施設とした水ビジネスの国際戦略拠点づくりを進めます。					
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.11人
	43,740 千円	32,842 千円			36,465 千円	係長 1.11人 職員 1.68人
						事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 (人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 民間企業が有する高い技術力や資金力と自治体が有する事業運営ノウハウや信用力を結集し、海外の下水道ビジネス案件の受注を図ります。			成果実績	成果実績は下記のとおりです。 ・インドネシア国スラバヤ市下水道整備計画等策定業務(H24.11~H25.3) ・カンボジア国シムリアップ市下水道整備計画等策定業務(H25.2~H25.3)	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	下水道に関するビジネス案件の受注	-	-	3,157 千円	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	アジアを中心とした国や地域を対象に、下水道に関するビジネス案件を受注します。 (最終目標と目標年度)			- %		
	水ビジネスの国際戦略拠点の開設	-	実施設計完了	実施設計完了	やや遅れ 遅れ	順調
市内の日明浄化センター内に水ビジネスの推進に必要な国際戦略拠点を開設します。 (最終目標と目標年度)平成27年度開設			- %			

活動計画	本市が人的ネットワークを有する中国大連市やベトナム・ハイフォン市、インドネシア、カンボジアなどを対象とした下水道ビジネス案件の受注に向け、官民連携による活動を行います。水ビジネスの国際戦略拠点開設に向けた実施設計が円滑に進むよう、豊富な実績を有する専門機関(日本下水道事業団)やコンサルタントと連携した検討および関係課会議を開催します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。 ・SIWW2012でプレゼン(H24年7月) ・ベトナムに出展(H24年11月) ・インドネシア下水道セミナー(H25年1月) ・設計を取り纏めるため、検討会・会議を適宜実施	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	ビジネス案件の受注に向けた活動	-	-	-	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「北九州市海外水ビジネス協議会」を軸に、技術・製品の具体的な売込みや各種展示会への出展、広報活動など、セールスプロモーション活動を進めます。			- %		
	円滑な実施設計の取りまとめに向けた活動	-	-	適宜実施	やや遅れ 遅れ	順調
豊富な実績を有する専門機関(日本下水道事業団)やコンサルタントと連携した検討および整備方針やスケジュールなどを整理する関係課会議を開催します。			- %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	北九州市海外水ビジネス推進協議会を軸にセールスプロモーションを行うことで、平成24年度は2件のビジネス案件受注に繋がっています。また、水ビジネスの国際戦略拠点の開設については、平成27年の供用開始に向け、当初予定通り、実施設計を取りまとめました。このことより、活動・成果とも順調としました。
		官民連携組織である北九州市海外水ビジネス推進協議会を軸に、民間の技術力や資金力と自治体の事業運営ノウハウや信用力を結集して、効率的・効果的に事業を実施しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)